

# 東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/ 松田 和秀  
編集者/ 教育・広報部

## 申4号 9月30日に発生した台風24号に関する団体交渉開催

横浜地本は3月25日、「申4号 9月30日に発生した台風24号に関する」団体交渉に臨みました。

### ↓ 申し入れ内容と回答

- 1、当日の時系列を明らかにすること。  
《回答》台風の勢力を鑑み、首都圏全線区の運休を決定した。
- 2、運転中止の伝達が出た際に、運転再開に関して横浜支社として安全対策を講じたのか明らかにすること。  
《回答》必要な対応は実施している。
- 3、「運転再開が翌日の始発から」との発表であったが、車両運用ならびに乗務員運用の送配、運転再開に向けた架線・線路点検に関する人員配置計画はどうだったか。また運転中止の判断以降の動きを明らかにすること。  
《回答》必要な対応は実施している。
- 4、この事象を踏まえ横浜支社として、この間取り組んできた対策を明らかにすること。  
《回答》必要な対応は実施している。

- (組合) 今回初めて20時以降全面的に運休ということで、お客さま・社員を考えた対応をしたのではないかと思います。その判断をしたことは素晴らしいと思っているが、その後の運転再開においてはプレス発表では「始発から運行する」ということが報道されて、現場で働いている社員は何も知らないような状況もあり、知っていてもその後どのようなようになるか具体的な指示がされていない状況が発生していたと思っている。台風また自然災害というものにおいては、これだけの問題だけではなくて今後の発生する事象であると思う。当日運転再開の判断は間違いなく本社・各支社で議論していることだと思うが、現状含めて当日の流れ対策本部としてどのような時間で判断したのか。現場に伝わったのは何時なのか。
- (会社) 今回の計画運休ということで、首都圏全域で運休するというで本社を交えた対策会議を行なっている。計画運休実施についても各支社合同で対策会議を開催し、気象庁の発表された台風の勢力を鑑みて20時以降運休していくと決定している。運転再開についても1日の3時頃がピークとあったので、前日の30日の時点で翌朝からの運転を計画していたのは間違いない。ただし風の影響がピーク時間よりも遅くなったことと、かなりの強風であったことで線路内の支障物の情報もあり本社含めて対策会議のなかで運転再開時の初列車を回送扱いとして線路点検を実施する判断を行っている。計画運休の決定については、9月30日10時の対策会議で判断している。プレス発表は12時に行っている。対策本部には指令も参加しているので各方面に周知をされているので2~3時間後だとは無いと思う。
- (組合) 運転再開時について本社と支社のなかでどういった協議がされていたのか。その際に支社として各職場の現状把握と各箇所設備確認は運転再開までの間にどれだけのものが出来ていたのか。
- (会社) 駅については18箇所支社の社員を含めて派遣をしている。状況については支社社員から随時対策本部に入ってきている。設備部門では金曜日に対策会議を開催し各系統で泊体制を確立している。100名前後で昼夜体制を組み関係箇所の巡回も行って来た。
- (組合) 各現場は、こういう対策を実施することをある程度知っているのか。台風モードという新しい取り扱いで行ったと聞いている。台風モードという点では、各職場において通達されているからこそやったのか。
- (会社) 今回計画運休ということで、今までは明確な基準というものは無かった。支社として事故のときのしおりの中に計画運休する際の目安・基準みたいのを載せている。今後は社員がわかるようにという、事故のときのしおりをもとに計画を立てていく。データ等を含めて「回送扱い」「運休」は指令からの通告のほうで行っている。
- (組合) 会社が計画運休を判断した結果は評価できるが、その後の運転再開がどうなるか解らない状況のなかで、次の日の始発から運転再開するプレスがどうだったのか。今後の課題も見えてきた。今後の支社が考えていく安全対策・取り組み方を各場所に伝えていくのか。
- (会社) 今まで大規模な計画運休は初めての実施であった。運転再開の安全確認はどうするのかというところはいろいろな課題があったと思う。今後の計画運休・運転再開していくかについて、安全のしおりに明記して社員全員が目を通して、どのように進んでいくかを社員へのお知らせ・周知になると思う。

災害時の計画運休・運転再開について  
安全に行えるようにチェックをしよう!!

